

我孫子市史研究センター・会報274号 (通算581号)

発行・編集 我孫子市史研究センター

発行日 令和7年3月27日

歴史探訪部会 3月の活動報告

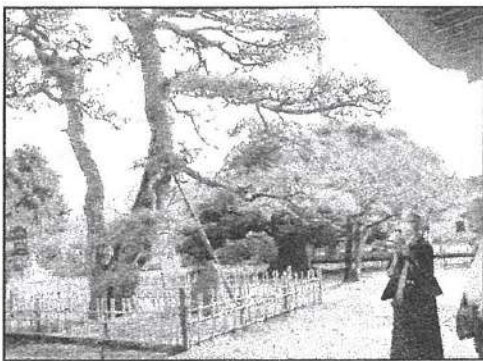
長谷川 秀也

探訪：3月14日(金)「旧下総町と龍角寺古墳群を訪ねる」—我孫子市福祉バス利用—

案内：白井上席研究員(風土記の丘資料館)、成田下総歴史民俗資料館館員、栄町文化財班

行程：JR 我孫子駅北口ふれあい広場前(8:30 発)～水と緑の運動広場(小休止)～龍正院～下総歴史民俗資料館～風土記の丘・龍角寺古墳群～龍角寺瓦窯跡・龍角寺～JR 我孫子駅北口ふれあい広場着解散(17:00)

当日は好天に恵まれ定刻8:30 出発、途中湖北駅北口ロータリーで6名が乗車、参加者は総勢21名。寺伝では承和五年(838)草創、慈覚大師開基云われる最初の探訪地龍正院(坂東 33 観音霊場第 28 番札所)9:45 着。



芭蕉句碑と夫婦松

住職に案内された本堂の中央に天井に届くばかりの金箔と朱色の漆に飾られた宮殿があり、左の不動明王、右の毘沙門天(現在は無い)が宮殿に安置されている本尊を守っている。格天井一つ一つに描かれた草花は、線香と灯明に燦ぶされ黒く光っていた。一寸三分の本尊十一面観世音(観音像の出現により人々は蘇生の想いをしたと云われる)は、定朝作と知られる一丈二尺の観音像胎内に収められている。荘厳の気が満ち溢れ、静寂な時が流れる本堂である。また、国指定重要文化財の仁王門(文亀年間 1501～1504 年再建)と、内陣の仁王像(大きな団扇で門前の大火を打ち返し、寺域を守った説話がある)や吊り下げられた注連縄、銅造宝篋印塔(享保三年作)、芭蕉句碑、地藏堂と地藏堂内に移設さ白馬と青毛馬、石造物などについて住職の説明は清潔で静かな境内と相まって自然に耳に入った。住職は月に一度、本山比叡山で修行をするとのこと。昭和50年代の千葉県の寺は総数約2,900ヶ寺、その内真言宗は約1,100ヶ寺、日蓮宗は約790ヶ寺と云われるなかで天台宗は約400ヶ寺あった。

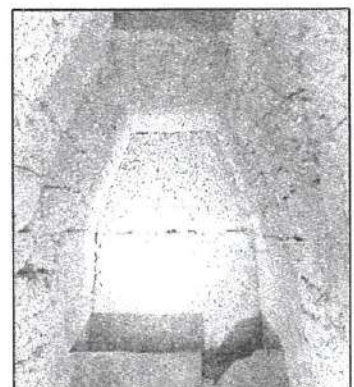
現在、成田下総歴史民俗資料館では「第二次世界大戦と滑川村郵政事業」の新企画展が開催されている。先月まで旧下総町周辺で発掘調査された出土品展が開かれ、房総の古代東海道支路線香取道にあった駅家「真敷」と刻字された紡錘車と同じ稻荷山から出土した十一面観音立像を展示していた。常時充実した展示をしている資料館と近隣で知られた資料館である。その後、バスの窓からムササビ型埴輪が出土した南羽鳥正福寺遺跡を遠望して風土記の丘駐車場へ。

古墳発掘の研究で著名な「白井久美子」先生による解説で岩屋古墳・104号古墳・101号古墳を見学。岩屋古墳の頂上で眼下に広がる「香取の海」を想像した。岩屋古墳石室は側面を北総台地にある貝化石の切り石で積み上げ、上部(蓋)は筑波から舟で印旛浦まで運んだ石材を使用したと云われる。なお、埴生郡衙跡は龍角寺古墳群の西端台地上の遺跡と推定されている。龍角寺瓦窯跡を経て龍角寺へ。幸運なことに、龍角寺住職が好意で本堂に続く宮殿の扉を開けてくれた。ガラス戸越しに白鳳仏を拝顔。探訪終了。17:00 出発地の我孫子ふれあい広場前帰着。解散。



101号古墳

古墳発掘の研究で著名な「白井久美子」先生による解説で岩屋古墳・104号古墳・101号古墳を見学。岩屋古墳の頂上で眼下に広がる「香取の海」を想像した。岩屋古墳石室は側面を北総台地にある貝化石の切り石で積み上げ、上部(蓋)は筑波から舟で印旛浦まで運んだ石材を使用したと云われる。なお、埴生郡衙跡は龍角寺古墳群の西端台地上の遺跡と推定されている。龍角寺瓦窯跡を経て龍角寺へ。幸運なことに、龍角寺住職が好意で本堂に続く宮殿の扉を開けてくれた。ガラス戸越しに白鳳仏を拝顔。探訪終了。17:00 出発地の我孫子ふれあい広場前帰着。解散。



岩屋古墳石室

古墳発掘の研究で著名な「白井久美子」先生による解説で岩屋古墳・104号古墳・101号古墳を見学。岩屋古墳の頂上で眼下に広がる「香取の海」を想像した。岩屋古墳石室は側面を北総台地にある貝化石の切り石で積み上げ、上部(蓋)は筑波から舟で印旛浦まで運んだ石材を使用したと云われる。なお、埴生郡衙跡は龍角寺古墳群の西端台地上の遺跡と推定されている。龍角寺瓦窯跡を経て龍角寺へ。幸運なことに、龍角寺住職が好意で本堂に続く宮殿の扉を開けてくれた。ガラス戸越しに白鳳仏を拝顔。探訪終了。17:00 出発地の我孫子ふれあい広場前帰着。解散。